

# 平成28年度 自己評価および学校関係者評価結果書

学校法人富士見学園 富士見幼稚園

## 1 幼稚園の教育目標

元気な子・・・仲良く遊ぶ子・明るく元気な子  
 <心の豊かな子> がんばる子・・・工夫して表現する子・力いっぱいやり遂げる子  
 優しい子・・・物を大切に作る子・友だち思いの子

## 2 本年度重点目標

子どもの思いを受け止めながら、活動や遊びを発展していけるよう環境を考える  
 一人一人を大切に、個々に合った対応を考える  
 子どもが自然に関わりながら戸外でのびのび遊び、心も体も元気な子に育つ

## 3 教職員による、評価項目に対する自己評価

平成29年3月 8日

評価項目	教職員自己評価	自己評価結果
1保育の計画	年間計画に組み入れられている活動や行事等の取り組みは、教師自身が先導していくのみでなく教師は先を見通し、子どもの興味や思いを大切に受け止めながら子どもと共に進めていくよう心がけて来た。 子ども達が毎年手がけている季節や行事等での活動で、今の子ども達の状況に合わせ教材等の見直しをしてきた。またその活動で子どもの何が育つのか？何が育って欲しいのか等をはっきり持ち進めていくようにした。	B
2保育のあり方、幼児への対応	子ども一人一人の特性や個性を理解し、個に応じた対応や援助を常に考え、専門家からも学び実践してきたことで、子どもの成長の幅が大きく広がった。 子ども達に対して明るく、温かな雰囲気ですることや心をかけるようにしてきました。子ども達の気持ちを壊さない言葉かけを心がけることで、子ども達がとても素直に気持ちを表出してくれ、優しさが育まれていると感じています。	A
3教師としての資質能力、良識、適正	園の子ども達を皆で見ていくことを教師間の共通としており、互いに情報交換しあうことで、その子どもの新たな一面を感じ子ども理解につながっている。 職員同士の連携を持ち経験が浅い教師の新鮮な発想を参考にしたり、経験者は気付いたことをアドバイスしたり教えあったりすることで、考え方や、子ども理解の幅を広げることができた。	A
4保護者への対応	園での子どもの様子、保護者の見えにくい部分を少しでも丁寧に伝えるよう心がけて来た。ただトラブルや怪我だけではなく子どもの変化や頑張っている姿を知らせ、子どもの成長を共に喜び合えた。 園での子どもの成長過程で気になるところを保護者と話し合い、その子にとって必要な経験等を保護者に働きかけ、保護者の思いも汲みながら、子どもの成長の見通しを共有し合った。	A
5地域の自然や社会とのかかわり	子ども達が地域の行事に参加させて頂き地域の方々と心温まる交流が出来子ども達は楽しそうであった。また近隣の小学生、中学生との触れ合いが持て、大きな刺激をもらい子ども達が生き生きしていた。 身近な自然で四季を感じたり、子ども達と捕まえたクワガタや生き物の飼育を行うことで、生き物に対する興味を増したり、愛着や生死を学ぶことができた。自然の中では人工物がなくても子ども達が伸び伸び遊ぶ姿から、自然とのかかわりの大切さを改めて感じた。	A
6研修と研究	合同研修会で互いに公開保育を行っている。その際、自分の保育を見つめ直すきっかけとなったり、今後の改善点がはっきり持てた。講師の先生から具体的にアドバイスを戴き日々の保育に生かすことができた。 カウンセラーの先生に援助の必要な子の具体的な対応を教えて頂き、実践することで、子どもが無理なく園生活を楽しめるようになってきている。教師間で互いに学んだことを伝言しあい自分たちの成長にもつながっている。	A

\*自己評価結果の表示方法 A・・・十分成果があった

B・・・達成された

C・・・取り組んだが達成が十分でない

D・・・取り組みが不十分であった



#### 4 改善方策及び年度以降に取り組む課題

個と集団の育ちを意識し、さらに一人ひとりの特性、個性を理解しその子に適した援助を工夫し心がけていきたい。  
 子どもの園生活の様々な姿や家庭での子どもの状況を常に家庭と交換し、共有できるよう連携を充実させていきたい。

#### 5 教職員自己評価項目に対する学校関係者評価 理事長 八木悦子 園長 井上恵子 平成29年3月21日

評価者：学校法人富士見学園富士見幼稚園学校関係者評価委員長		
評価日：平成29年3月13日		
評価項目	学校関係者評価員会	評価点
1保育の計画性	活動そのものが、子どもの思いを引き出していけることは、子どもの自主性にもつながりとても大切なことだと思う。教師は季節感、伝承したい行事等を踏まえたうえで、子ども達の思いを加味しながら保育計画を立て子ども達が生き生きと楽しみながら園生活ができることの配慮を今後も大切に励んで欲しいと思う。	B
2保育のあり方、 幼児への対応	様々な性質を持っている子ども達との生活を通し、一人一人の子ども理解がその子の成長に大きな影響を与えるので、専門家に指導を受けながらその子その子に合った援助を実践していることは評価できる。全員の教師が共通理解あっていることが大事で担任のみでなく園全体で育てていることが、成長の幅を広げられるのだと思う。	A
3教師としての資質 能力、良識、適正	職員間で共通理解が出来ることで、年数の少ない教師も情報交換で幅広く学べ、日々の保育に活かされているように思う。情報交換でそれぞれの実情を伝えあう事でその都度アドバイスしやすい状況になっていることが、教師の力となっているように思う。 経験ある無いに関わらず、その教師の個性が発揮できる場を設けていることで、互いに認め合い、教師自身が自信が持てる良い機会になると思う。	A
4保護者への対応	どの保護者も園での子どもの生活振りを知りたいと思っている。園での子どもの頑張りや成長の姿を伝えていくことは家庭ではみられない子どもの姿が垣間見られ、喜びも大きい事と思う。保護者の子どもへの思いを受け止め保育を進めていくことで共通の見通しや子ども理解が共有できた事は良かったので、今後も大切にしていって欲しい。	A
5地域の自然や社会 とのかかわり	地域に開かれた幼稚園と言うことで、地域の皆様との触れ合いの機会が持てる事は地域の子も達として捉えていただけてとても良い機会だと思う。私立幼稚園として小学校、中学校等と触れ合いの機会が設けられることは、園児も大きなお兄さん、お姉さんに憧れや親しみを持つとっても貴重な時間ではないかと思う。 園の周りは自然が一杯、子ども達が戸外で遊ぶ姿をよく目にするがどの子も生き生きと遊んでいる。心身が豊かに育つには自然に触れあうことが不可欠であると思う。	A
6研修と研究	公開保育で自分の保育を見て頂いたり、見せて頂き振り返りができる事は自分自身が向上できる機会になると思う。そして講師の先生より具体的な指導を受けられることで、改善点を持ちながら前進することは一步一步質の向上になると思う。子どもにとって園は心地よい環境となるのが大切だと思うので、向上心を持ち続けて日々頑張ってもらいたい。	A

\* 自己評価結果の表示方法 A…十分成果があった

B…達成された

C…取り組んだが達成が十分ではなかった

D…取り組みが不十分であった